

なぜクロップフィルを調べるのか？

04

- 餌付け後、特定の重要な時期にクロップフィルを調べることは、ヒナが適切な発育をしていることを知り、餌と水を見つけたかチェックする有用な方法です。
- もしクロップフィルが不十分ならば、適切な発育とならず、初期の増体が悪くなるでしょう。また、飼料要求率(FCR)、日増体および骨格の発育も望ましいレベルにはならず、鶏群の揃いと処理場成績にも影響するでしょう。
- 育雛方法のモニタリング



クロップフィル調査の方法

クロップフィルは餌付け後48時間の間にモニターしますが、最初の24時間が最も重要です。

準備するもの

1. ヒナの囲い
2. ペンか鉛筆
3. クロップフィルを記録する用紙

方法

餌付け後2時間で行う最初のチェックは、ヒナがエサと水を見つけたかどうかの指標になるでしょう。続いて農場到着後8、12、24と48時間後のチェックも、食欲の発達を判定するために必要です。

ステップ1 囲いを用いて、鶏舎内（あるいはスポットブルーディングを行って
いるところではガード内）の異なる3-4箇所から一度に約10羽ずつ
合計30-40羽を集めます。

ステップ2 注意してヒナを手で
持ち上げ、囲いの中の
ヒナを1羽ずつ、親指
と人差し指を使って
優しく触ります。



ステップ2

ステップ3 次のカテゴリーを用いて、各ヒナの嗦囊の容量を記録します：

- 満杯で柔らかく、丸みがある－ヒナはエサと水を見つけている。
- 満杯だが触ると元の飼料の形状が分かる－ヒナは、エサは食べているが、水はほとんど、あるいは全く飲んでいない。
- 嗦囊は空－ヒナはエサと水を見つることができていない。

ステップ4 カテゴリー毎に記録されたヒナの数、調べたヒナの総羽数で割って
100を掛けて、各カテゴリーのヒナの割合を計算する。

ステップ5 結果を3ページのクロップフィル調査目標ガイドラインと比較する。

クロップフィル調査用紙の例

餌付け後経過時間	8
カテゴリー	ヒナの羽数
1. 満杯で柔らかく、丸みがある	
2. 満杯だが触ると元の飼料形状が分かる	
3. 空	
合計	35

計算例：

$$\begin{aligned} \text{カテゴリー1のヒナの割合 (\%)} &= \frac{\text{カテゴリーのヒナの数}}{\text{総検査羽数}} \times 100 \\ &= \frac{30}{35} \times 100 \end{aligned}$$

カテゴリー1のヒナ = 餌付け8時間後 86%

クロップフィル調査目標ガイドライン

餌付け後クロップフィル調査の時間	目標 (クロップフィルが満たされたヒナ%)
2時間	75
8時間	>80
12時間	>85
24時間	>95
48時間	100

結果の見方

クロップフィルは目標かそれ以上

対応は必要なし

クロップフィルは目標ガイドラインより5%以上低い（例えば、餌付け8時間後、75%以下）。

対応が必要
育雛方法の更なる調査が必要。

考慮しなければならない分野：

環境

- 鶏舎がヒナ到着前に予備加温されていることを確認。
- もし必要なら、モニタリングと調節によってヒナの快適さを最適にする：
 - ヒナの高さでの空気の温度
 - 敷料温度
 - 相対湿度
- 育雛域の照度が最適レベルであることを確認。
- 日齢の若いヒナにとって換気量が適正であることを確認。

エサと水

- ヒナが邪魔されずにエサと水にアクセスできることを確認。
- 育雛域の少なくとも80%にエサの撒かれた紙が敷かれていることを確認。
- 少量のエサを何回も紙の上に補給。
- 補助給水器（ミニドリンカー）が使われていることを確認。